

令和6年度第1回名取市市史編さん委員会 会議録

日 時：令和6年5月22日（水） 午前10：00～午前11：30

場 所：仙台法務局名取出張所 2階 会議室4

出席委員：我妻諭委員長、瀧澤信雄副委員長、笠原信男委員、菅野正道委員、
千葉正樹委員、藤澤敦委員、相澤秀裕委員、小野友和委員、仙石次男委員、
小室昌弘委員、小島哲夫委員

事務局：齋藤正光教育部長、林タケル市史編さん室長、浅見智彦室長補佐、
遠藤晶乃主幹兼係長、鈴木健仁主幹、鈴木雄己主事、鳥居建己主任専門員、
城所喬男専門員、劉明達専門員、大友健太郎主事（兼務）、桑折肇主事（兼務）

1. 開 会

〔開会に先立って委員に委嘱状を交付〕

2. あいさつ

〔委員長よりあいさつ、資料の確認、委員・事務局自己紹介〕

〔議事録の作成方法については委員から了承を得た方法で執り行う〕

（傍聴席は0人）

委 員

前回は委員に2名女性が入っていたが、今回女性委員がいないのはなぜか。

事務局

委員の推薦にあたって市の方でもなるべく女性を登用することを推進しており、各団体に女性を優先して推薦していただくようお願いしたところ、推薦いただいた方に女性がいなかったため、今回は男性委員のみになった。

また、女性委員を絶対に登用しなければならないという規定はない。

委 員

2号委員の役割と期待することは何か。

副委員長

市民を代表する2号委員には忌憚なき意見をいただくことで、より多くの市民に親しんでいただける市史ができるのではないかと考えている。

3. 議事

（1）報告事項

①令和5年度事業報告

〔資料に基づき事務局より事業全体の説明〕

※中世部会資料の菅生街道の踏査の項目の内、誤表記の修正

誤：垂水地区や… ⇒ 正：樽水地区や…

委 員

原始・古代部会は、部会を2回開催し、執筆分担と構成を確認し、資料のピックアップを行った。また、共催で講演会も行った。

金剛寺貝塚の出土資料のヤマトシジミとハマグリを年代を測定したところ、どちらも縄文時代晩期のものであった。ここから海が遠くなっている時代にわざわざ遠くまで出かけて貝を取りに行っていたことが分かった。このあたりの遺跡の理解の上で重要なデータとなった。

笠島廃寺の発掘調査については、1950年ごろに大学の先生によって発掘調査が行われて以降行われてなかった遺跡。市史を書くにあたり情報が少なかったため、調査費用を取っていただき、測量調査、地下のレーダー探査、そして1950年の発掘成果を基に試掘調査を行った。1950年当時の発掘成果として、多賀城廃寺とよく似ていると推測されていたが、今回の調査の結果、推測されていた金堂跡と講堂跡を貫くように溝跡が出たこと、発掘された瓦がいずれも平安時代のものであったことから、公的な寺院というより、平安時代の地域の有力者が作った寺院である可能性が高いことがわかった。当初の想定とは違う結果になり、また十分に明らかになっていないので、今後どうするかは新年度計画のところでお話する。

委 員

中世部会は、戦国時代の城跡調査をメインに行った。熊野堂近辺の城跡である川上大館の図面を取るために、何度か現地入りした。また、高館城跡はすでに図面測量が作られ、本にも掲載されているが、改めて確認したところ、これまで知られていたよりも遺構の範囲が広がっていたことがわかった。堀の遺構は東北地方有数の大規模なものであることが明らかとなったので、今後しっかり調査するつもりである。

近世部会は、専門部員と手分けをして県内の博物館、資料館、図書館等で持っている資料の中で、名取関係のものを洗い出している。あわせて事務局が中心となって、いくつかの名取市内の旧家の調査を行った。その中には江戸時代初期の貴重な資料も発見された。その資料は現在、歴史民俗資料館の企画展で展示されている。また、部会長に仙台市内の古文書の有名な蒐集家の遺族から調査依頼が入り、確認したところ、閑上関係のものが結構あることがわかった。中身の確認は済んでいないため、今後の課題となっている。

そのほか、7月23日になとり市史講演会を実施し、2月23日には貞山運河ネットと市史編さん室の共催で歴史セミナーを開催した。

事務局

近代・現代部会は2度部会を開催した。執筆分担と構成、今後の資料調査、公開を含む資料の利用について話し合われた。

また、行政文書の確認、議会資料、統計資料の調査、震災資料等の確認、閑上小中学校所蔵資料の調査、個人宅の資料調査などを実施した。

事務局

名取熊野部会は、令和4年度から部会長を務めていた方から、令和5年3月末で辞任したいという申し出があったため、事務局はその辞意を受理した。

部会は1回開催し、掲載内容の検討を行った。

調査については、熊野那智神社経塚群の踏査を東北の経塚研究の第一人者をお呼びして実施した。また、下余田の熊野三社の踏査を和歌山県新宮市から執筆依頼をしている方をお呼びして実施した。他にも宮城県図書館所蔵の大門山遺跡板碑の拓本の確認調査を実施した。

委 員

前部会長が辞任した理由は何か。

事務局

個人的な都合なので詳しくは申し上げられない。

委員長

新しい部会長は決まったのか。

事務局

令和4年度から専門部員を務めている先生にお願いし、了承を得ている。

委 員

民俗・地域誌部会は、名取市内11の地区をそれぞれの専門委員が分担して調査している。

部会は2回開催し、調査手法や項目を共有、確認した。

調査内容については、高館地区で調査項目確定のための下調べを昨年度実施し、近世・近現代の石碑や墓碑を調査した。高館地区だけで166基の石碑を確認した。こういった基礎資料をどこまで揃えられるか、市史にどう反映させていくのかを確認しながら進めていきたい。

専門委員会については、2回開催した。直近の委員会では『名取市史』の体裁について議論した。この件は本日の編さん委員会の議題にも挙がっている。

委 員

委員が先ほど高館地区に石碑は166基あるとおっしゃったが、私の調べでは300基以上ある。次に多いのが愛島で、やはり300基以上ある。

委 員

もしよろしければご教示いただきたい。

委 員

ご教示するほどのものではない。

②令和6年度予算等について

〔資料に基づき事務局より説明〕

(2) 協議事項

①令和6年度事業計画

〔資料に基づき事務局より事業全体の説明〕

委 員

原始・古代部会では、5月に部会を開催して、より詳細な構成案を各執筆担当者に提出していただいた。

市、県、博物館、大学がそれぞれ所蔵する資料のうち、撮影が必要なものをピックアップし、掲載する材料を揃えていく。

笠島廃寺については、できれば10月か11月に追加調査を実施したい。

また、墨書土器の検討会を実施する。

委 員

中世部会では、主に個人所蔵の古文書について、何ヶ所か調査できればと思っている。

事務局では、『仙台市史』、『岩沼市史』に掲載された名取関係の資料をまとめる作業をしている。

城館調査の方は、当初は桑島館跡の調査を実施する予定であったが、高館城跡が中世城館を考える上でも重要な城であることがわかったので、高館城跡の調査を今年度実施する。

板碑の調査が懸念事項だと考えている。現在、報告書で400基の板碑が確認されているが、どのような形で調査するか、今年度の早いうちに名取熊野部会と民俗・地域誌部会と協議したい。

近世部会については、県内のいくつかの機関で持っている名取関係の資料の状況を確認し、どこから調査するか検討している。あわせて、仙台藩の公式記録である『治家記録』のうち、活字化されていない部分について、部員で手分けして名取市関係の記事を抜き出そうかということ部会長に提案された。

また、名取市内の旧家の調査は市史編さん室と相談の上、着手したいと部会長が申し出ていた。

事務局

近代・現代部会では5月に1回、部会を開催し、資料集の現状と課題、『名取市史』の体裁について協議した。

調査については、オーラルヒストリーの採録を5月に副市長をインフォーマントとして実施し、その続きを7月に実施する予定。それ以外の方々についても専門部会の希望を基に候補者リストを作成し、随時実施する予定。

また、7月に市内巡見を実施し、増東軌道跡や震災復興伝承館を回る予定。

事務局

名取熊野部会については、6月に部会を開催し、それぞれの項目の担当者を決める予定。また、当日は大門山遺跡板碑群を見学し、今後の調査計画を立てる予定となっている。

また、和歌山県の熊野三山の調査を実施予定。そのほか、熊野那智神社経塚群の測量と試掘

を考えている。

委 員

民俗・地域誌部会としては、6月に部会を開催する予定。各地区の調査の進捗状況、これまでの調査項目について、修正が必要かどうかを協議する。

また、屋敷の一角に住内明神（「じゅないのみょうじん」または「ずないみょうじん」）という形で板碑が祀られている。この板碑の調査方法について、中世部会、名取熊野部会と歩調を合わせながら、こういった形で進めるかを今年度中に議論して結論を出して、調査に反映させていきたい。

委 員

さきほど、板碑の話が出たが、私も調査報告書を基に1件1件調査したが、他に2基見つけた一方で、調査報告書に記載があるが、見当たらないところも多くあった。

委 員

近年、家の建て替えや相続の関係、信仰の変化によってそこにあったはずの板碑がなくなってしまうということは仙台市でもあった。名取市でもそういった事例がある可能性は高い。歴史民俗資料館や文化財係の担当者にかつての報告書に記載されている写真や拓本、調査カードがあるか尋ねているところなので、そういった資料で補完することになるだろう。

②『名取市史』の体裁について

〔資料に基づき事務局より説明〕

委員長

事務局から提示された体裁でいきたいとのことだが、ご意見いただきたい。

写真と文章を変形2段組の上に置くのか、下に置くのかは決めていないようである。

副委員長

A4判だとちょっと大きすぎる気がする。学校とかで使う場合もB5判の方が使いやすいのではないかと思う。

委員長

それでは事務局の案で進めて行くことにする。

4. その他

委 員

伝説や古墳、藤原実方が市史にどう書かれるのか知りたい。地元の古老の話を聞いて欲しい。歴史を知っている地元の人はたくさんいる。それを市史編さんに反映できれば良い。

委員長

昔のことを知っている人を紹介してほしい。聞き取り調査をさせていただきたい旨を周知しているのだが、まだ、市民には広がっていないようである。

委 員

前の『名取市史』の時に貸した資料が返ってこないため、これが障害になって、資料を見させてもらえないということもあった。

委員長

今回は書類できちんとやり取りし、資料も全部記録して、ちゃんと返却する仕組みができている。

委 員

旧家には市史編さん室を通してコンタクトを取っている。伝説の扱いについては、古文書で整合性が取れなくとも、かつての地域の様子が復元できればと思っている。

委 員

古墳は、全体の数を示しながら、その中でも重要な古墳を紹介する形式で書いていく予定。

委 員

高館山古墳は古墳なのか。

委 員

80年代の後半に何回か調査したが、現状の形を見る限り、古墳とみるには不自然なところがある。ただし、古墳を中世で再利用して、加工した可能性もある。確実なことは言えない。

委 員

高館城跡の遺構としてみても不自然なところがある。高館城跡と古墳をつなぐところがだらだらとしていて、城の一部には見えない。その辺も含めてしっかり調査する予定。

委 員

必要であれば私も城館調査に同行する。記憶を呼び起こしながら、確実に言えるところ、可能性として考えられることを整理して示す形にしたい。

委 員

どのぐらいの深さで取り扱うかは進捗状況次第ではあるが、集落ごとに伝説、神社仏閣などを取り扱う予定。まだどのように扱うのか決めかねているが、例えば寺院であれば信仰の歴史、仏画、仏像も含まれる。地域の伝承については、委員が知っている歴史や、古老を紹介していただければ、非常に参考になる。

委 員

2号委員に任命されたので屋外調査に日程の調整がつく限り、参加させていただきたい。日

当と旅費は不要。

委員長

事務局や専門部会と調整して頂いて可能であればと思う。事務局と相談するように。
そのほか、なにもなければ、議事を終了する。
それでは、進行を事務局に返す。

5. 閉会

事務局

以上をもって、令和6年度第1回名取市市史編さん委員会を終了する。